

今後の開かれたアトリエ展覧会

今年度も「開かれたアトリエ展覧会」では、市民の皆さんが出展者として参加する展覧会やワークショップ企画の開催を予定しています。お楽しみに！

* 展覧会の日程は変更する場合があります。
開かれたアトリエ展覧会の詳細は、かめおか霧の芸術祭ホームページ・SNSをご覧ください。

開催日程	展覧会名	展覧会の内容
7月25日(土) ～8月20日(木)	手と手と。 (teto teto ten)	亀岡市内の社会福祉法人「花ノ木医療福祉センター」の利用者の皆さんの作品の展覧会を開催します。日々の活動の中で生み出された個性豊かな絵画の展覧会です。
9月17日(木) ～11月26日(木)	参加しよう！ KAME WALK展	<p>亀岡の農家さんの野良着を、市民の皆さんとデザインし、形にしていくKAME WALKプロジェクト。今年度開催される全国都市緑化フェアでのファッションショーを目指して制作する作品の展覧会です。</p> <p>参加者（個人・チーム）募集中！</p> <p>農家の機能的な作業着として知られている野良着。カッコよさ、機能性、環境への配慮、そして独自の視点で、「生活と衣服」について考え、オリジナル野良着を作ってみませんか？</p> <p>【応募要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢・学歴・職歴は問いません。 ・デザインや洋裁経験の有無は問いません。 ・定期的にワークショップに参加できる方（リモート参加も可能） ・亀岡在住・出身・通勤通学している方など <p>参加希望・ご質問は、右のフォームからお申し込み・お問い合わせください。 (締切：6月6日)</p> 
12月1日(火) ～1月5日(火) ・ 1月8日(金) ～2月11日(木・祝)	参加しよう！ めぶく展 2026	今年も公募展を開催します！ 亀岡在住、出身、通勤通学している方など、亀岡にゆかりのある皆さんの作品を募集します。絵画や彫刻、写真などはもちろん、日々密かに続けている趣味や工作、集めているものなど、ジャンルは問いません。 募集・詳細は8月頃にかめおか霧の芸術祭ホームページ・SNSで公開予定です。
2月15日(月) ～3月18日(木)	亀高展 (タイトル未定)	今年も「×亀岡高校」の取り組みとして、亀岡高校美術・工芸専攻の生徒たちによる作品展を開催します。普段の学校での課題から飛び出し、生徒の皆さん自身が課題を探し、テーマを決め、芸術祭スタッフと一緒に展覧会を作り上げます。



5/22(金) - 7/1(水)

西久松 吉雄 難波 洋子 西久松 綾
(※上記会期中、一部展示替えあり)

7/3(金) - 7/22(水)

山本 和夫 渡辺 信喜 児嶋 俊見



開かれたアトリエ展覧会

未来から
届けられた記憶

亀岡市役所地下1階「開かれたアトリエ」
9時-17時 入場無料・会期中無休
(※会期中、6/11(木)・7/2(木)は展示替えを行うためご覧いただけません)

文化庁 令和8年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation



公式HP



かめおか霧の芸術祭実行委員会 事務局 (亀岡市文化芸術課内)
〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神 8 番地
Tel 0771-55-9655
<https://kameoka-kiri.jp/>

展覧会「未来から届けられた記憶」

かめおか霧の芸術祭「開かれたアトリエ展覧会」では、昨年度と今年度に亀岡市へ作品を寄贈された6名の芸術家の作品を展示します。

それぞれの芸術家の作品を通して、私たちは亀岡の美しい畑や山々、霧や風の気配、足元の土の感触、そして生き物たちの息吹を感じ取ることができます。この記憶こそが、ふるさとの原風景として未来へと受け継がれていくことを願います。

西久松 吉雄 Nishihisamatsu Yoshio 日本画家

京都市生まれの日本画家、西久松吉雄さんは、1979年京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了。在学中より創画展に出品し、同年京都日本画美術展で新人賞を受賞しました。1994年京都新聞日本画賞展大賞、1995年山種美術館賞展優秀賞、2010年京都美術文化賞、2020年京都府文化賞功労賞など、多数の受賞歴を持ち、2006年に(一社)創画会正会員に推挙されました。2018年に成安造形大学名誉教授に就任し、現在は浜田市立石正美術館館長、成安造形大学客員教授、(一社)創画会副理事長を務めています。



難波 洋子 Nanba Hiroko 日本画家

岡山県生まれの日本画家、難波洋子さんは、1985年に京都市立芸術大学大学院日本画専攻を修了し、現在は(一社)創画会会友、京都日本画家協会会員、子どもアトリエ絵画教室主宰として活動しています。1984年の京都春季創画展 春季展賞をはじめ、京都美術展 奨励賞(84年)、松柏美術展 優秀賞(96年)、未来につなぐ日本画展 優秀賞(2023年)など受賞多数。1983年の創画展など主要な展覧会に出品し、2005年以降は京都のギャラリーを中心に個展を精力的に開催しています。作品は京都府や彩雲堂のパブリックコレクションに収蔵されています。



西久松 綾 Nishihisamatsu Ryo 日本画家

京都府亀岡市生まれの日本画家、西久松綾さんは、2011年に金沢美術工芸大学日本画専攻を卒業後、2014年に京都造形芸術大学大学院を修了しました。現在は、(一社)創画会会友、京都日本画家協会会員として活動しています。主な受賞歴としては、第3回続 京都日本画新展 大賞(2016年)、京都花鳥館賞展 最優秀賞(2017年)、京都春季創画展 春季展賞を2018年、2019年、2023年と複数回受賞。2009年の第36回創画展以降、精力的に作品を発表し、2017年には個展「風土の記憶」を開催。2025年には「Takashimaya Art re-Axis2025(美の予感)」に出品されました。作品は浜田市立石正美術館、中信美術館、JR西日本旅客鉄道株式会社本社などのパブリックコレクションに収蔵されています。

本展覧会「未来から届けられた記憶」は、この原風景の記憶が未来に繋がり、わたしたちが未来のあるべき風景に気づかされる機会となることを目指しています。

見慣れた山々や、日頃意識していなかった足元の風景を、芸術家それぞれの視点から再発見し、未来へと続く町の記憶を紡ぎ出します。

渡辺 信喜 Watanabe Nobuyoshi 日本画家

京都市生まれの日本画家、渡辺信喜さんは、1964年に京都市立美術大学日本画科を卒業し、1966年に日展で初入選し晨鳥社に入会。故・山口華楊(1899-1984)に師事していました。

1970年に日春展奨励賞、1971年には日展特選を受賞するなど、多数の受賞歴を持ち、近年では2018年に高島屋(京都、大阪、東京、横浜)で個展、2019年に堂本印象美術館で個展を開催しました。



山本 和夫 Yamamoto Kazuo 日本画・水墨画家

島根県生まれの日本画・水墨画家、山本和夫さんは鳥海ニ楽子に師事し、中国常熟市書画院から荣誉院士称号を授与。平安南画壇会長を第70回展まで務め、現在、(公社)日本南画院顧問、京都日本画家協会会員を務めています。



児嶋 俊見 Kojima Toshimi 木版画家

亀岡市本梅町生まれの版画家、児嶋俊見さんは、亀岡市内の小学校を中心に教諭や校長を務め、退職後の2013年に木版画制作をはじめました。2015年に第1回目の個展を開催し、その後も精力的に個展を開催。21・23年には高槻日赤病院ホスピス棟画廊で展示。25年第74回板院展に初出品、日本板画院新人賞・外部審査委員石井頼子賞を受賞。毎年京都市で、グループ展も積極的に開催しています。

